

普段から防災マップで確認を

避難方法を確認し、できることから準備しましょう



国見町防災マップ

国見町防災マップ



土砂災害警戒区域と浸水想定区域、指定避難所等が確認できます。家庭や地域で避難経路や避難場所を話し合う際に活用してください。

災害が発生しやすい箇所を確認

自宅やよく利用する施設、通勤・通学路などでどのような災害が発生する可能性があるか、防災マップで確認しましょう。防災マップは住民防災課や町ホームページで閲覧できます。

避難所を確認

避難所と併せて、自宅から避難先までのルートに河川の氾濫や土砂災害の危険性がないか確認しましょう。また、避難所は災害の状況により開設を決定するため、近くの避難所が開設されない場合があります。自宅近く以外の避難所も確認しておきましょう。

水害・土砂災害時の避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？



※防災マップは浸水や土砂災害が発生する恐れの高い地域を着色した地図です。着色されていない地域（地点）でも災害が発生する可能性があるため、十分に注意してください。

防災マップ（※）で自分の家がどこにあるのか確認し、印をつけてみましょう。

家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ 色が塗られていなくても、周り比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

災害の危険があるので原則として自宅の外に避難

例外 浸水の危険があっても、下記①～③に当てはまる場合は自宅に留まり安全確保することも可能です。
①洪水により家屋が倒壊または崩落するおそれの高い区域の外側である
②浸水する深さよりも高いところにいる
③浸水しても水が引くまでに我慢できる、水・食料などの備えが十分にある

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい 警戒レベル4が出たら、親戚や知人宅に避難しましょう。
いいえ 警戒レベル4が出たら、町が指定した避難所に避難しましょう。

※ご自身または一緒に避難する人が避難に時間がかかる場合には警戒レベル3がでたら避難しましょう。

出典：内閣府防災情報のページ



災害時の避難行動を考える

自然災害から身を守るために

災害に対する心構え

7月から10月にかけて、台風や梅雨前線の影響により、大雨や洪水などの自然災害が発生しやすい時期となります。特に近年では、これまでの想定をはるかに超えるような豪雨や突風など、人命に危険を及ぼすほどの激しい気象現象が頻発しています。当町においても甚大な被害をもたらした、一昨年の「令和元年台風第19号」が記憶に新しいのではないのでしょうか。一人ひとりが自分の身を守る「自助」や地域社会の人と助け合う「共助」が求められます。いざという時に備えて自分の家の防災対策や災害発生時の身の安全な守り方など、必要な対策を考えておくことが重要です。



河川の氾濫により甚大な被害を受けた川内地区

避難情報に関するガイドラインの改定

国は、東北、関東甲信越を中心に甚大な被害をもたらした令和元年台風第19号を教訓とし、ガイドラインを改定しました。激甚化・頻発化する豪雨災害に対し、避難情報をより明確に、迅速な避難につなげるため、これまでの「避難勧告等に関するガイドライン」の名称を含め、「避難情報に関するガイドライン」と改定し公表しました。今後は、改定されたガイドラインに基づき「避難勧告」は廃止、「避難指示」へ一本化されます。

ひなんしじ 避難指示（警戒レベル4）で必ず避難



警戒レベル	状況	避難情報等	避難行動等
5	災害発生又は切迫（大雨特別警報に相当）	緊急安全確保	命の危険 直ちに安全確保!!
4	災害のおそれ高い（土砂災害警戒情報に相当）	避難指示	危険な場所から全員避難
<警戒レベル4までに必ず避難!!>			
3	災害のおそれあり（大雨・洪水警報に相当）	高齢者等避難	危険な場所から高齢者等は避難
2	気象状況悪化	大雨・洪水注意報等（気象庁が発表）	自らの避難行動を確認
1	今後気象状況悪化のおそれ	早期注意情報（気象庁が発表）	災害への心構えを高める